

織物工場育ちの 原体験踏み台に

桐生市境野町出身の詩人 新井高子さん

第3詩集「ベットと織機」刊行

上州弁の響きやリズム取り入れ

桐生出身の詩人、新井高子さんが、織物工場を舞台にした叙事幻想詩集「ベットと織機」を刊行した。金欄(きんらん)を織り続ける力織機と働く女たちの生命力がみなぎる生産現場で、「ジャンガンジャンガン、ジャンガンジャンガン」と独特の韻律が鳴り響く。濃密な色と音と匂いの立ち込める工場を突っ切って、その先に何を見ようとしているのか。行間に立ち現れる異界は近代化を経てこまできた現代社会への物言いのようで、詩人の豊潤な想像力で描き出されている。

(襄崎昭子記者)

豊潤な想像力で描く

「年女の 新井さん。 1966年丙午(ひのえつま)の生まれで、父は境野町六丁目の桐生

織伝統工芸士、新井實さん。子どものころ、桐生織物は全盛を過ぎていたとはいえず、20人ほどの若い女たちが住み込みで働き、工場に夜食を運んだり電話の取り次ぎをしたりするのが役目だったという。

(前略) 機械なおしの二人のほかは、みんな女の工場に、銭湯のよう、丸出しのおっぱいはこぼれまです、ホンモンも泣きじゃくれば、飲まサア

言葉を使う大切さ 遠藤泰子アナ語る 法人会笠懸支部 桐生法人会笠懸支部 (樋口京司支部長)の 地域貢献事業として、

とエロスとが生々しく



疾走する。 2008年に小熊秀雄賞を受賞した第2詩集「タマシイ・ダンス」の巻頭詩で、方言をベイスにした新しい韻律を試みた。古い工場に打ち捨てられたまま回り続ける糸車のような怪異譚(たん)を物語るにふさわしい言葉として、上州弁の響きやリズムを取り入れた。標準語化された日本語では貧相なのだ。

「ベットはベッドの意味だが、土地ごとの発音のままつづり、言葉遊びが続くうちに行が替わると連う次元に飛躍してみせる。「ナイロンスカーフ」「ヘルド」「音曲桐生川など22編のなかには「ねんねんころりよ」のように、織機を動かす電気や経済の問題も潜む。(前略)原発にけっきょくお盛んですぞ、赤んぼの半減期……………」

第2詩集「タマシイ・ダンス」と最新の第3詩集「ベットと織機」

意味だが、土地ごとの発音のままつづり、言葉遊びが続くうちに行が替わると連う次元に飛躍してみせる。「ナイロンスカーフ」「ヘルド」「音曲桐生川など22編のなかには「ねんねんころりよ」のように、織機を動かす電気や経済の問題も潜む。(前略)原発にけっきょくお盛んですぞ、赤んぼの半減期……………」

造本もこだわり 表紙は石内さん 表紙は桐生出身の写真家石内都さんが撮影した銘仙で、巻き返る裏地の色を生かした装丁はミルキィ・イソベさんと、造本もこだわりがある。未知谷刊、A5判、161ページ、本体2000円。

フリーアナウンサー遠藤泰子さんの講演会がこのほど、みどり市笠懸町の笠懸野文化ホール・パルで開かれた。「女も男も上手にコミュニケーション」をテーマとして講演した遠藤さんは、アナウンサー歴40年の経験談を交え、心を込めて言葉を使うことの大切さを説いた。遠藤さんは1971

ほか、昨年9月の放送ラジオ長寿番組「永六輔の誰かどこどこかで」のアシスタントなどで知られる。

講演では「世の中で一番大切なのはコミュニケーション」をテーマに、二ヶ所から出た言葉は取り返しがつかないなどと、言葉によるコミュニケーションの大切さと難しさを力説。自らの著書のタイトルにかけて「あったかい言葉で話しましょう」と呼び

なんねエ／赤んぼオブツて、通っておったんです、女工さんらは／ベビーベットの持ち込んで、稼エでおったんです／機械油と髪油と乳臭さが、工場のおい(後略)」。表題作「ベットと織機」も原体験を踏み台に虚々実々、労働と喜怒哀楽

「前略) 機械なおしの二人のほかは、みんな女の工場に、銭湯のよう、丸出しのおっぱいはこぼれまです、ホンモンも泣きじゃくれば、飲まサア

言葉を使う大切さ 遠藤泰子アナ語る 法人会笠懸支部 桐生法人会笠懸支部 (樋口京司支部長)の 地域貢献事業として、

フリーアナウンサー遠藤泰子さんの講演会がこのほど、みどり市笠懸町の笠懸野文化ホール・パルで開かれた。「女も男も上手にコミュニケーション」をテーマとして講演した遠藤さんは、アナウンサー歴40年の経験談を交え、心を込めて言葉を使うことの大切さを説いた。遠藤さんは1971



詩作の原点は境野小5年生のときの詩と作文のノート。「先生のコメントがうれしくて、毎日書いていた」という新井高子さん。東京都内で詩と批評の雑誌「ミテ」を編集・運営。埼玉大学日本語教育センター准教授

「前略) 機械なおしの二人のほかは、みんな女の工場に、銭湯のよう、丸出しのおっぱいはこぼれまです、ホンモンも泣きじゃくれば、飲まサア

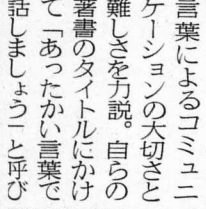
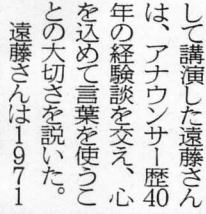
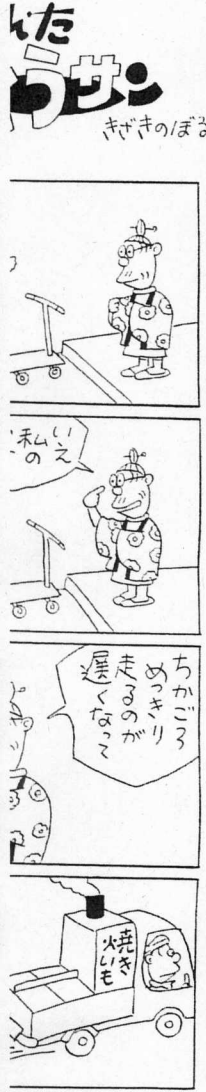
言葉を使う大切さ 遠藤泰子アナ語る 法人会笠懸支部 桐生法人会笠懸支部 (樋口京司支部長)の 地域貢献事業として、

フリーアナウンサー遠藤泰子さんの講演会がこのほど、みどり市笠懸町の笠懸野文化ホール・パルで開かれた。「女も男も上手にコミュニケーション」をテーマとして講演した遠藤さんは、アナウンサー歴40年の経験談を交え、心を込めて言葉を使うことの大切さを説いた。遠藤さんは1971

フリーアナウンサー遠藤泰子さんの講演会がこのほど、みどり市笠懸町の笠懸野文化ホール・パルで開かれた。「女も男も上手にコミュニケーション」をテーマとして講演した遠藤さんは、アナウンサー歴40年の経験談を交え、心を込めて言葉を使うことの大切さを説いた。遠藤さんは1971

フリーアナウンサー遠藤泰子さんの講演会がこのほど、みどり市笠懸町の笠懸野文化ホール・パルで開かれた。「女も男も上手にコミュニケーション」をテーマとして講演した遠藤さんは、アナウンサー歴40年の経験談を交え、心を込めて言葉を使うことの大切さを説いた。遠藤さんは1971

フリーアナウンサー遠藤泰子さんの講演会がこのほど、みどり市笠懸町の笠懸野文化ホール・パルで開かれた。「女も男も上手にコミュニケーション」をテーマとして講演した遠藤さんは、アナウンサー歴40年の経験談を交え、心を込めて言葉を使うことの大切さを説いた。遠藤さんは1971



SKS3・SK3 六面加工材 大同特殊鋼の金型用材料

